

日^ばあ 場

不易流行

いわくら病院の開ける未来への羅針盤

2025.10月 第10号

“挑戦・成長・深化”で築く未来

理事長 岡山 達志

35年を回顧して 前理事長 岡山 好男

歩みと今後の期待 事務長 市場 真澄

- ・ 着任医師紹介
- ・ 認知症治療病棟 パンの木
- ・ いわくらオープンフェスタ

石座神社 いわくらじんじゃ 撮影 津田 直子

挑戦・成長・深化

で築く未来

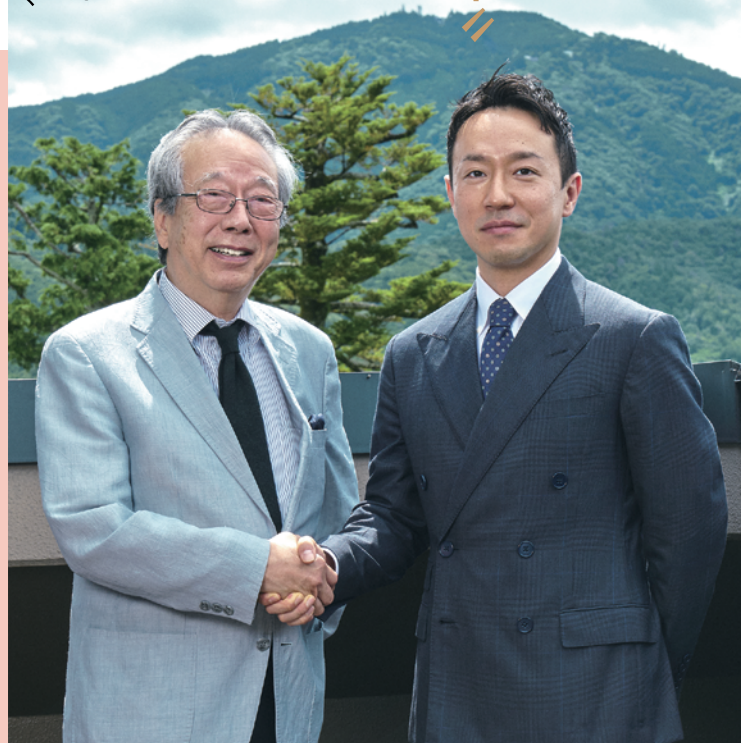
理事長

おかやま たつし
岡山達志

2025年10月、第3代理事長岡山好男より引き継ぎ、第4代理事長に就任いたしました岡山達志です。まだ41歳という若輩者ですが、若さを武器にし、これからの稲門会のテーマとして『挑戦』+『成長』+『深化』を掲げたいと思います。

まず『挑戦』ですが、精神科思春期病棟や訪問診療をはじめ、社会から必要とされながらも体制が整っていない課題に真正面から取り組んでいきます。近年、10代や20代の患者数が増加しており、特に中学生や高校生の不登校や精神疾患が社会問題となっています。しかしながら、現在京都府下に思春期病棟を有している病院はなく、児童相談所などの行政機関はパンク寸前の状態です。また、独居高齢者の増加や長期入院患者の退院支援に伴い、在宅患者数の顕著な増加が見込まれています。訪問診療をしている医療機関は数少ない状態です。

このような社会課題は時代とともに次から次へと生まれ、変化していきます。稲門会はそのような社会課題にも真摯に向き合い、職員一丸となって解決できる法人となれるよう『挑戦』し続けていこうと思います。



次に『成長』です。父が就任した35年前と現在では法人を取り巻く環境は良い意味で一変し、大きく成長していると思います。ただ私が非常勤医として赴任した2021年時点でも院内の空気は澁んでいるように感じました。法人内の連携はもとより院内の連携も十分に取れていないように思われたのです。そこで、まずは院内の連携、特に医―医・医―看の連携を深めることに努めてきました。職員の多様な協力もあり、多職種にも連携の輪を広げ、わずか数年で院内の連携は非常に強化されました。そして地域との連携やアウトリーチの強化にまで注力できるようになり、連携の面では『成長』できたのではと感じております。

今後は法人全体にこの『成長』を拡大し、地域全体に『成長』の成果を還元していく所存です。そして、連携面だけでなく、医療DXやAIをはじめ、職員の職場環境や福利厚生・給与面などもふまえた多角的な『成長』を目指していきます。

最後に『深化』です。これまで稲門会是全国的に先駆けた『開放医療』や急速に進む高齢化社会に対応するための老人保健施設・特別養護老人ホームなどの老人福祉事業、そして訪問看護ステーションや就労支援事業など先人達によって築き上げられてきた多くの強みがあります。また父がとても大切にしてきた『情報』の共有化『経営のオープン化』という経営面での強みも有しています。これらの礎をさらに『深化』させ、稲門会が持つ強みをより強固にしたいと思います。

以上のように、稲門会は、社会課題の解決に取り組み続ける『挑戦』、多角的な『成長』、現状の強みをより強固にする『深化』をテーマとし、地域にとって必要不可欠な法人になるよう進んでいきます。そして『少子超高齢化』『崩壊の危機にある地域医療』といわれている激動の時代を乗り越え、今後の予測できない未来にも柔軟に対応できる底力をつけていき、崔院長が掲げた病院理念である『人と社会に開かれている病院』をさらに広げ、日本一の『開かれている法人』を目指し邁進していききたいと思っています。

稲門会職員の皆様、地域の皆様、関連機関の皆様、これからの長い旅路を共に歩んでいただきますよう何卒宜しくお願い申し上げます。



現在のいわくら病院本館（2005年 改築年当時）

35年を

回顧して

前理事長 岡山好男

おかやま よしお

この10月1日に35年続けておりました理事長職を岡山達志に譲渡いたしました。今やつと肩の荷が下りたというのが正直な感想です。そしてここまで長い間、支えてくださった職員の皆さんに心より感謝申し上げます次第です。

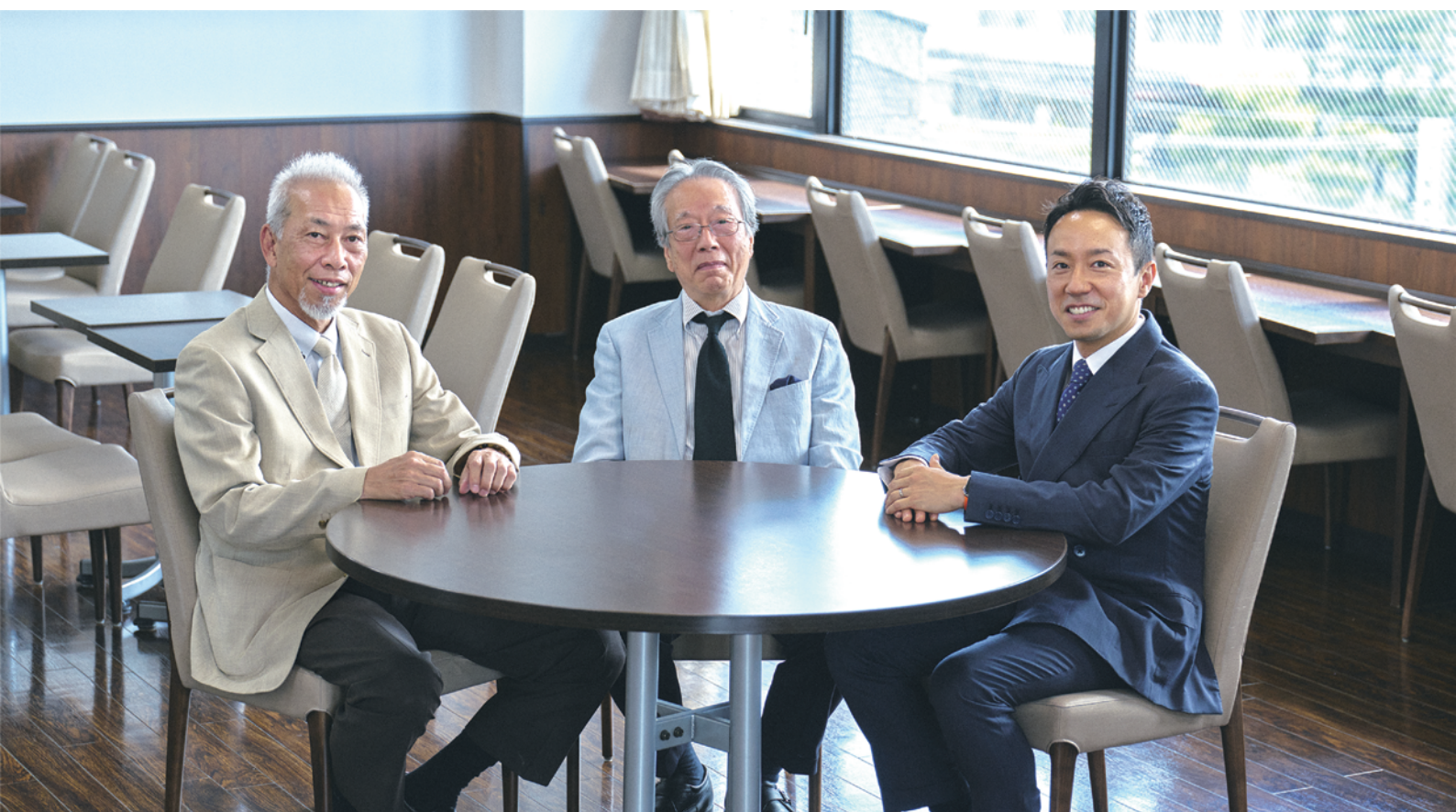
振り返りますに公私共に一身にて一生を生きるが如くの波乱万丈の人生でした。私が理事長に就任したのが1990年・平成2年のバブル真つただ中で経済成長に伴い物価・給与も右肩上がりの今では考えられないような狂乱の時代でした。病院の経営も絶対に潰れないという神話が あったぐらいで当時は労使の対立も激しく春闘時に改定の上昇部分を取り合つて無益な紛争をしていたのも今となつてはほろ苦く懐かしい思い出です。

当時のいわくら病院の医療は開放医療に重点を置きその他の事に於いてはかなり他病院から遅れていたように思います。病棟は古く、精神病院特有の臭い・汚い・暗い・怖いを地であつていたような療養環境でした。とにかく病棟・病室をきれいにすることが最優先事項と考えて南館・北館の改修、改築に取り組みました。南館を増築して110床を超える病棟を二分画し、北館を全面改築してようやく患者さまにも適切な療養環境を提供できるようになったと思つています。

最後に2005年に完成した本館の改築によりいわくら病院の雰囲気や評判が随分と向上し、暗い怖い病院のイメージからの脱却により近隣の人たちとの交流も増えました。理事長就任時にはここまで至るには労使の信頼関係の修復を含めて25年くらいの年月が必要と覚悟していましたが、職員の協力もあり15年で達成することができました。この間静原の地に老人保健施設「しずはつす」を開設し又新たに「フェアウインドスキ」と「アビイロード」や「ましな」と二つの介護老人保健施設を承継し、急速に進む高齢化社会に対応できる体制を整えました。これにより今までは関わりたくない精神病院から困つた時には助けてもらえる稲門会グループへと地元の方のいわくら病院を見る目が変わったように思います。

これからは地震やゲリラ豪雨などの自然災害や予期せぬ国際紛争など何が起こきても不思議でない時代になりました。またAIやDXといった我々団塊の世代には理解不可能な新しい言葉や技術が世界を席巻する混沌の時代になつてきています。この変化の大きい時代には私のようなアナログ世代の人間はその対応力が乏しいという事を認めざるを得ません。この難しい時代で稲門会グループを更に発展させるにはここが潮時で、後進に譲り今後は若い人たちに任せたい方がいいと考えた次第です。

ただ如何にAIが進化しようとも「動機」と「熱意」だけは機械には持ちえないと言われています。人間だけが持つ「情熱」や「真摯な心」で新しい技術に対応し、人の道を踏み外さず稲門会グループを発展させてもらうことを祈りながら側面から見守りたいと思います。皆さん長い間本当に有難うございました。



歩みと

今後の期待

事務長 市場 真澄

いちば ますみ

10月1日より理事長の交代があり、新たな体制でスタート致しました。

私事ですが私自身が当法人にお世話になって46年が過ぎました。当時、精神科病院の多くが閉鎖空間の中で治療がなされ、外部とは隔絶された環境に置かれていました。

当時、いわゆる病院にも閉鎖病棟があり建物の窓には非常に太い鉄格子が嵌り異様な雰囲気がありました。当院も2つの病棟以外は木造建てで病室は旅館の宴会場のような大広間(100畳敷に多くの患者さまが療養されていました。(また、古い名残で手術室がある建物も存在していました)

就職した当初「この病院でいつまで働くだろうか」と考えていたことを思い出します。



1978年当時のいわくら病院

そのような思いの中で働きながら看護学校に通い、看護師免許を取得し、そして役職(師長、副看護部長)に就きながら多くの勉強をさせて頂くことが出来ました。

その後、看護部から医事課へそして現在、事務長としてお世話になっております。

医療を取り巻く環境はこの年月の間に大きく変化してまいりました。特に診療報酬に関しては上がることはなく下がる一方でどのような状況です。病院経営は課題になつていく状況です。病院経営は診療報酬(公定価格)に大きく左右されます。病院として診療報酬誘導に逆らうことは出来ず、どうすればその波に乗る事ができ、且つ良い結果を出すかを考えられています。(この仕組みは永久的になくならないものだと思います)

<芸術作品展示>

2025年度から京都精華大学のご協力を頂き院内にて芸術作品の展示を行うことになりました



「鞍馬駅」 趙雨豪さん 作

叡山電車の魅力を伝えるプロジェクト「えいでんアート」に於いて選出された作品群が本館を彩っています

当法人の経営理念は

- (1) 社会から求められる病院づくり
 - (2) 働きがいのある職場づくり
 - (3) 安定した経営基盤の確立
- と3つの柱を上げています

その中で「安定した経営の確立」が無ければ良い医療を提供できる病院づくりは社会から求められる病院づくりや働きがいのある職場づくりはできないと私自身は考えております。2040年に向けた新たな地域医療構想がスタートしました。この中には精神科医療も含まれた構想になっています。これから本格的に生き残りをかけた時代に突入してまいります。どのような方針が国や地方自治体から出されてくるのかまだ不透明であります。がどのような荒波が押し寄せてきても大船の舵を取り、乗り切る組織になつていかなければなりません。新しい体制のもと新たな挑戦と先達者が培ってきた組織をより強固にし、成長していく事を切望しています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

着任医師紹介



村田 佳子

昨年9月からお世話になっております村田佳子と申します。
滋賀医科大学卒業後京都、滋賀の病院に勤務し、2008年から関東に移動し、昨年関西に戻ってまいりました。当初は患者さんやスタッフの関西弁を聞くたびに懐かしく感じておりましたが、現在はすっかり日常となりました。
まだまだ知らないこともありご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

気付けば精神科医9年目ですが、病棟での臨床業務は久しぶりで新鮮な気持ちです。
大学院では児童と摂食障害のグループで研究活動をしていました。いわくら病院には研修医の時に1ヶ月間お世話になりました。
同志社高校出身なので、岩倉という土地にご縁を感じています。そういえば高校生の時に「岩倉虫」と呼んでいた虫がいて、刺されるとけっこう腫れて痛かった思い出があります。あれは何だったのでしょうか…。



砂田 桃

今春入職時から、アルコール依存症専門治療病棟で勤務しております。それまでは、京都を中心に、大学病院、総合病院、単科精神科病院で精神科医としての研鑽を積んでまいりました。
患者様の回復に貢献できるよう、今後も精進してまいります。
どうぞ宜しくお願い致します。



金 俊佑

認知症治療病棟

パンの木

認知症に伴う症状が著しく、日常生活や施設での介護が困難な患者様を対象に、専門的な治療とケアを提供する病棟です。当病棟は多職種チームで連携し、患者様一人ひとりの「その人らしさ」を大切にして、症状の緩和、生活機能の回復、そしてご本人とご家族が希望する場所への早期退院を目指します。

※デイルームや廊下は、転倒時の負傷を緩和するために柔らかな床素材を使用しております。



● 認知症疾患ご相談窓口

相談時間 平日 9:00～17:00
土曜日 9:00～12:00

電話番号 相談窓口:075-711-2171 (代)

電話で「認知症に関する相談」とお伝えください。
相談員がお伺いします。受診は予約制です。

いわくらオープンフェスタ

～こころとまちの架け橋～

開催決定

昨年、開催した“いわくら学術フェスタ”ですが、
今年は、名前を新たに「いわくらオープンフェスタ」として開催することになりました。

日時:2025年11月15日(土) 9時～16時(雨天決行)

会場:いわくら病院 (本館など)

いわくらオープンフェスタとは、私たちが精神医療の現場で培った学術を様々な形で、当事者や地域の皆さまに還元する目的で企画した催しです。
こころが開かれた関係づくりをモットーとして、専門職による講義やワークショップ、映画上映会、出展など様々な企画を予定しております。
今年度は、キッチンカーも来ます！たくさんのご参加をお待ちしております。



認知症治療病棟発表



デイケア作品



訪問看護発表



病棟事例発表



アクセサリー製作ワークショップ



薬剤師による
～知ってて良かった 薬の正しい使い方～

表紙の言葉

「不易流行」は、松尾芭蕉の俳論に由来する言葉で、「変化の激しい現代社会においていつまでも変わらない本質(不易)を理解し、それを基盤とすることを大切にしながら、同時に新味を求めて変化する要素(流行)を取り入れていくこと」を意味します。伝統や本質を守りつつ、新しい時代や状況に合わせてバランスをとりながら変化していくことが重要だという考え方です。

